

# 宮城野区内の遺跡紹介

宮城野区は仙台市の北東部にあり、東は太平洋に面し、中央部を七北田川が貫流しています。面積は62km<sup>2</sup>で、近代的な街並から広々とした水田地域、大型の船舶が入り出する仙台港など、様々な光景が見られます。「宮城野」という地名は、平安時代から和歌の歌枕として登場し、古代から人々の往来のあったことを物語っています。宮城野区内には、集落、窯跡、古墳、城跡などの遺跡が95ヶ所もあります。ここでは、その中から代表的な遺跡を紹介します。

# 第16回 文化財展

——発掘この一年——

仙台市教育委員会



国指定史跡 岩切城



栢江遺跡 瓦窯跡(瓦を焼いた窯の跡)



大蓮寺2号窯(瓦を焼いた窯の跡)



鴻ノ巣遺跡 調査全景



善応寺横穴古墳群

## 普及活動の記録

私たちの祖先が残してくれた文化財は、現代に生きる私たちへ、人間としての生き方・未来への在り方を示し、多くの教訓を語りかけています。これらの文化財を活用して、今年度も数々の行事を実施しました。



夏休み親子縄文体験(富沢遺跡)



沖野小 遺跡見学会(神柵遺跡)



遠見塚小 発掘体験学習(南小泉遺跡)



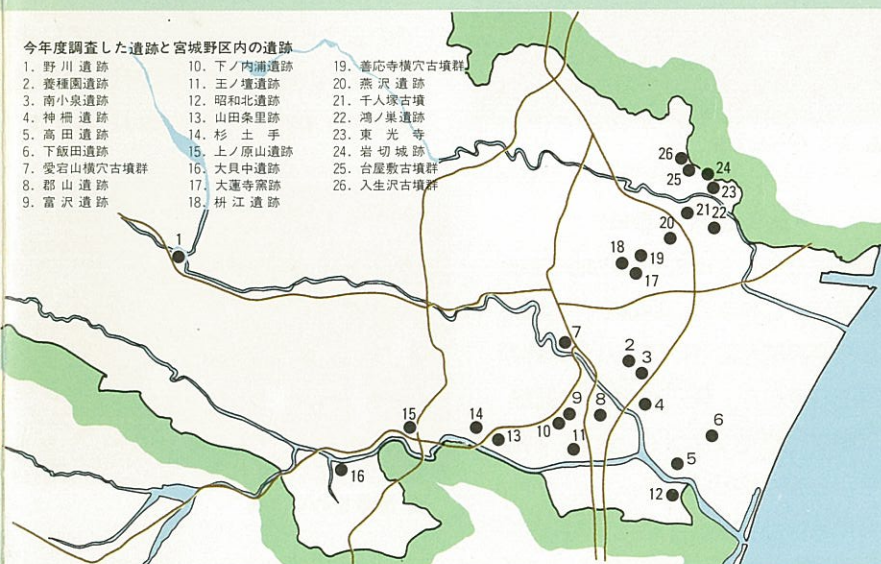
現地説明会(富沢遺跡)



第15回文化財展(旧石器時代展)



▲ 重ねられた大型の石器と密集するはく片(第1土坑)



野川遺跡(青葉区 熊ヶ根)  
 広瀬川の支流青下川ぞいの台地の上にある遺跡です。縄文時代が始まった頃(約1万年前)の石器貯蔵跡が見つかりました。はく片(割ったままの石片)が多量にあることから、ここで石器の製作が行われたのかもしれません。

— 若林区 —

— 太白区 —



▲ 江戸時代の建物跡

養種園遺跡(南小泉)

広瀬川下流の平地にある遺跡です。今回の調査では古墳時代の住居跡、中世の溝跡、江戸時代の武士の屋敷跡・池庭・蔵の一部などが見つかりました。この屋敷跡は、仙台藩伊達家の別荘跡とみられます。



▲ 愛宕山横穴古墳群D地点の状況

愛宕山横穴古墳群D地点(向山)

愛宕山の南斜面に横穴を掘って造られた千数百年前の墓です。今回は15基を調査し、鉄の刀などが見つかりました。この付近には数十基の横穴があったものと思われ、豪族や役人たちの墓であったと考えられます。



▲ 古墳時代の竪穴住居跡

昭和北遺跡(東四郎丸)

名取川下流の南側にある遺跡で、ムラの跡と考えられます。今回の調査では、古墳時代の住居跡や多数の土器、平安時代の溝跡や土器、その他時代は不明ですが小さな溝跡が見つかりました。

南小泉遺跡(南小泉ほか)

遠見塚古墳を中心に平野部に広がる遺跡です。調査の結果、古墳時代の住居跡、平安時代の溝跡、鎌倉時代の堀跡や建物跡、多量の土器や石で作った儀式用の飾り物、中国から輸入した器などが見つかりました。



▲ 平安時代の溝跡と古墳時代の竪穴住居跡

郡山遺跡(郡山)

これまで郡山遺跡では、約1300年前の2時期(I・II期)の役所(官衙)跡とII期官衙に付属する寺院跡が見つかりました。今年度の調査では、I期官衙の材木列・建物跡のほか、II期官衙と同時代の溝跡が確認されました。



▲ 飛鳥時代の建物跡

山田条里跡(山田ほか)

名取川北岸の水田地帯に広がる遺跡です。3年間の調査で縄文時代のおとし穴・炉跡、近世の堀跡が見つかりました。また平安時代の水田跡が広い範囲で発見され、古代条里制との関連が注目されます。



▲ 平安時代の水田跡



▲ 奈良時代の建物跡

神柵遺跡(沖野)

広瀬川と名取川の合流点の北側にある遺跡です。付近には神柵・中柵・館などの地名が残っていました。調査の結果、奈良時代の建物跡・堀跡や土器・硯などが見つかり、役所に関連する施設の遺跡とみられます。



▲ 弥生時代の小さく区切られた水田跡

富沢遺跡(長町南ほか)

富沢遺跡では今年も10ヶ所で調査が行われ、弥生時代から江戸時代頃の水田の跡が重なって見つかりました。さらに鎌倉時代から室町時代頃の地下に物を貯えた倉の跡(土倉)から木簡(字を書いた木の札)なども発見されました。



▲ 杉土手

杉土手(山田)

江戸時代に、おもに動物が田畑を荒らすのを防ぐために造られたもので、かつては旧国道286号線の北側ぞいに、約6kmにわたって築かれていたようです。調査では土手は数回の修復が行われていることなどがわかりました。

高田遺跡(今泉)

広瀬川と名取川の合流点の東側にある遺跡です。今回の調査で、平安時代と江戸時代の水田跡が発見されました。江戸時代の水路跡からは椀・ゲタなどが見つかりました。また弥生時代の土器・石器なども多く出土しました。



▲ 見つかった弥生土器

下ノ内浦遺跡(長町南)

名取川支流の荒川の北側にある遺跡です。これまでの調査では、縄文・弥生時代の墓、古墳時代から江戸時代までのムラと水田跡が見つかりました。昨年の調査では古墳時代頃の畑が発見され、調査は今年も続けられます。



▲ 古墳時代頃の畑跡

上ノ原山遺跡(茂庭)

名取川中流の台地の上にある遺跡です。2年間の調査が行われ、平安時代の住居跡、縄文時代のおとし穴や土器・石器、旧石器時代の石器(1万5000年前頃)などが見つかりました。



▲ 調査しているようす



▲ 奈良時代の竪穴住居跡

下飯田遺跡(下飯田)

海岸線から約3km内陸の平地にある遺跡です。これまでの調査で、古墳時代から奈良時代にかけてのムラの跡が発見されました。竪穴住居跡や堀跡、川の跡などが見つかりました。調査は今年も続けて行います。



▲ 屋敷をめぐる堀

王ノ壇遺跡(大野田)

名取川支流の荒川ぞいにある遺跡です。今年は堀で囲まれた屋敷跡が見つかりました。鎌倉・南北朝時代頃のもので、掘立柱の建物跡や井戸跡、当時使われていた陶磁器や石製のカイ口などが発見されました。



▲ 縄文時代のおとし穴

大貝中遺跡(坪沼)

名取川中流の南岸にある遺跡です。調査では縄文時代の土器・石器のほか、おとし穴も多く見つかりました。これらのことから今からおよそ6千年くらい前の遺跡であることがわかりました。